「高等学校における英語の多読活動の実態調査及び効果的な実施法についての研究」

英語科　小 澤 信 治

Extensive Reading（多読）を通して、生徒は教科書を使った読みとは本質的に異なる実用的な読む力を培うことができると考える。多読活動をどの程度の高等学校が取り入れ、また成功させる上で、どのような工夫をしているかを質問紙法によって調査した。されに多読活動を先進的に取り入れている大学、高等専門学校、（中）高等学校を訪問し、授業参観、聞き取り調査を実施した。

キーワード：Extensive Reading　多読活動　質問紙調査　効果的な指導法

はじめに

生徒に英語の多読活動（Extensive Reading）をさせることによって、教科書ではなかなか得られない英語を読む楽しみを与えることができると考えられる。ともすると文単位で意味を解釈していくIntensive Readingでは文章全体の意味や流れを見失ったりすることもあり、生徒がcomfortableに感じられる難易度の文と興味関心に基づいた読材を用いた Extensive Reading とは読みの質的な違いがある。

筆者の以前の取り組みからは、多読の実践によって生徒から以下のような意見が寄せられた。・続き物のストーリーなので読みがいがあった。・続きが気になる内容で授業が楽しみになる。・教科書よりも内容がおもしろい。・同じ話をずっと読んだ方がよい。

また多読を実践したクラスの方が、実践しないクラスと比べると、Listening Test, Reading Test, Cloze Testならびに定期考査で生徒の成績が高くなる傾向が見られた。（小澤2003「Extensive Readingを取り入れた英語の授業」筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要）

さらに多読を実践したクラス（実験群）と実践しないクラス(統制群)とをA（Gap Filling Test-content wordを埋めるテスト),B(Gap Filling Test-functional wordを埋めるテスト), C(Title Finding Test-比較的短い文章のタイトルを見つけるテスト), D(Thinking Skill Test-文と文との自然で合理的なつながりを答えるcohesionまたはsentence to sentence discourseの力を問うテスト）の４つからなるPre-TestとPost-Testを実験の前後に実施して、生徒の英語の成績別にみたところ次のような結果が得られた。評定が４以上のグループについてみると、ＡＢＣＤいずれについても多読のポジティブな効果が得られた。評定３グループではＡＤでポジティブ、ＢＣでネガティブとなった。成績で分けた場合ではこのグループがＡＤでポジティブの数値が大きい。評定２のグループではＡのみでポジティブで他ＢＣＤではネガティブの数値が大きくなった。（小澤2009「生徒の英語力の向上に及ぼす多読の効果についての実証的な研究」筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要）

このように基礎的な英語の成績要因が及ぼす影響があると考えられるものの、多読が生徒の英語力の向上に意欲の面や、能力の面でよい効果をもたらすものであることが示唆された。ただ現実的には大学入試等への試験対策や定期試験向けの勉強で多読のための時間がとれないのが現状なのかもしれない。しかし多読活動に近似した英語の活動が英語の教育課程に組織的に取り入れることになれば、状況は大きく変わると考えられる。ただし現行のリーディング教科書とは異なった難易度、アプローチでそれは取り組む必要がある。

Julian Bamford & Richard R. Day (2002, Extensive Reading Activities for Teaching Language, Cambridge University Press)によって、網羅的に多読活動が紹介されている。高等学校に於いても研究会等で多読の実践事例は発表されているが、それぞれの取り組みがお互いに情報を組織的にやりとりし、より効果的な多読の実践方法を探る必要があると考えられる。

研究目的

高等学校における英語の多読活動がどの程度、またどのように行われているかを実地調査や質問紙法による調査を通して明らかにするとともに、これらの結果を踏まえてより効果的な実践方法について資料を得、本校での

試行比較を試みる。よって高等学校の英語学習指導上の多読活動の具体的な指導法について示唆を得るものとする。

計画・方法

多読活動を取り入れている高等学校や大学への訪問調査を行い、どのようなブックライブラリーを揃えて、生徒または学生にどのような形で多読を行わせるのか、また担当教員に多読活動の成果と課題について所見を聞く。全国のランダムに選んだ高等学校に対して多読活動の実施の有無、活動形態などについて質問紙法調査を実施する。いくつかの活動については本校の生徒を対象に試行を行い、効果、問題点等について検討する。成果については報告書としてまとめて、協力校へ送付する。

結果と考察

〔質問紙による調査〕

全国の高等学校399校に資料末尾に掲載した調査用紙を郵送し、回答の協力を求めた。無作為に抽出した379校に国立大学附属の高等学校20校を加えた399校である。回答校は108校であった。

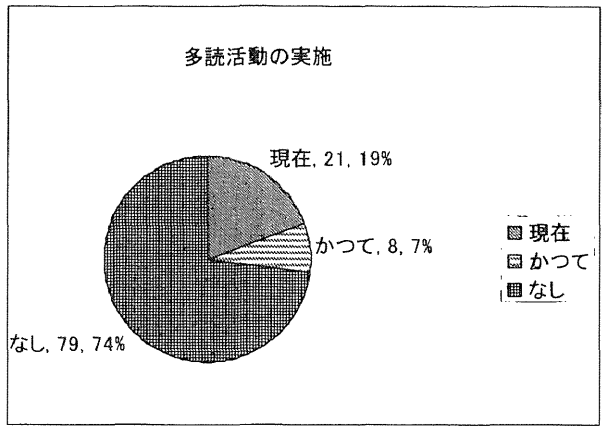
質問紙の冒頭に英語の多読活動の定義として、「原則として、生徒が主体的に自らの興味関心に基づいて読材料を選択し、語彙や文法の理解、個々の英文解釈に拘わらずに、楽しみを目的とした英語の読書をできるだけ多く行わせる活動」とした。

以下、回答校の課程、学科、設置者、規模、多読活動の実施の有無、実施しているあるいは実施したことがある場合は、実施状況、成果と課題、多読教材の種類と冊数、多読活動に対する意見を記入してもらう。実施したことのない場合にも、多読教材の種類と冊数、多読活動に対する意見を記入してもらった。

回答に基づいて、集計分析を試みた。ただあくまでも399校に宛てた調査依頼に対して回答があった108校の集計であることは一応考慮する必要があろう。見本抽出としての妥当性であるが、発送数に比べて回答数が決して多くはない。ただ比率的に捉えた場合、全国高等学校の実態を推測する資料とはなるものと思われる。399校に含まれない学校やまた回答を寄せない学校で優れた多読実践を行っていることがあることは当然、あり得ることである。また回答していただいた例には、冒頭に掲げた英語の多読活動の定義から、やや離れるものもあった。多読（Extensive Reading）は、その活動の内容がおよそ定まるのであるが、広義に多読を解釈してくださった方もいた。以上のことをふまえて集計結果を解釈していただきたい。

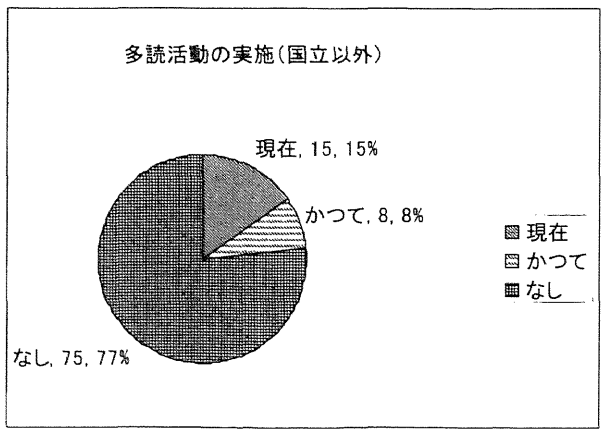
多読活動の実施

多読活動の実施の有無（現在実施している21校、かつて実施していたが現在はやっていない8校、実施したことはない79校）



現在実施している中では、公立11校、私立4校、国立6校である。回答を寄せた108校の構成は公立81校、私立17校、国立10校である。したがってこの数値からのみ判断すると比率的には実施率が高い方から国立、私立、公立の順になると言えよう。国立は教育上の実験校としての役割を持っていること、また私立はカリキュラムの構成に比較的に縛りが少なく、また公立とは違った学校としての特色を出していくことが求められていることなどがその要因であろう。ただセルハイの指定を受けて多読活動に取り組んでいる公立学校もある。回答を頂いた東京都立千早高等学校や埼玉県立松山女子高等学校である。

後から加えた国立を含めない方が全国の実施状況を近似値的に推定する上で妥当とも考えられる。そこで上のグラフから回答を寄せた国立10校を差し引いて、新たにグラフを作成してみた。



なお多読活動を狭義に捉え、電気通信大学准教授、酒井邦秀先生が述べる多読3原則（酒井邦秀・神田みなみ2005「教室で読む英語100万語」大修館）に則って多読教材(first language children's literature and young adult literatureやESLあるいはEFL用graded readersやlanguage learner literature）を生徒が主体的に、易しいレベルから英文を読んでいく作業とすると、実施比率はもっと低くなるだろう。ただいずれの定規をあてはめるかは別にして、英文の多読の持つ教育的な価値は高いものと考える。

多読活動への意見

多読活動に対して各校から寄せられた意見を以下にまとめてみた。

（現在実施している学校からの意見）

・授業での教科書の読み方とは違う、読み方で、面白さや興味を主体に本人が能動的積極的に英文を読むことはとても有効な英語の学習になると思う。（英語のために英語を勉強するのではなく、何か他の目的のために英語を使うことの中での方が学ぶことが多いかもしれない。例えばディベートをやる生徒が多くの英文を読んだり書いたりする中で力を伸ばしていくように。）

・気の長い取り組みですが必ず英語力の伸張につながるとおもいます。ただ本は高いのでどこでもできるという訳にはいかないと思います。すぐに成果を求められる昨今の風潮の中では肩身が狭いかも知れません。きっかけ作りとして全員に課題を与える一方で全く自由な活動としての多読のすすめと、両方をやっていくと効果があると思います。

・とてもよい活動であり、多くの学校で取り入れられるようになるとよいと思います。そのためにはカリキュラムや生徒の進学先に応じてどのように行うのがよいか（時間の内外、１時間で、あるいは帯で）について考えていくことが必要ではないかと思います。

・英語を楽しく勉強できるのでとても有効な学習手段だと思います。

・大変効果があると思っています。今年度も２００冊購入予定です。

・良いと思うのですが授業の時間を使ってやるのはちょっと抵抗があります（授業という感じではないので）現実として「楽しんで読む」段階に行くのはかなり大変であると感じています。

・素晴らしい可能性を秘めている学習法でより広く多くの学校で導入し活用すべきだと思います。

・年に数回全員に行うことで全く興味のない生徒も楽しむ機会を得ることもあり、多少は強制的にでも実施することに意義があると思う。

・どんどん読ませることで英語に対する壁を取り除いて欲しいと願いつつ指導を行っているが、読ませ方など、多くの課題を残しているのも事実である。他校での実践を知る機会があればと思っている。

・EFLという状況にある日本の生徒たちにとって、自分のペースで楽しく英語にふれられる貴重な体験である。

・Reading Marathonは高校生にとって大変やりがいがあり、苦痛を伴わないReadingで楽しむことが大切です。実力もついていくと思います。

・最近の音読ブームの陰で話題になりにくくなっていますが、英語はまず読めることが先だと思います。最近読んだ水村美苗の「日本語が亡びるとき」という本にはなるほど、と思いました。

・授業で扱う英文は量が決定的に不足しているのでとにかく簡単なものでも大量に読ませるのが必要だと考えています。

・多読に本を用いるのはなかなか難しいと思います。いろいろ原因は考えられますが単に読ませるのではなく何か読むことで「学び」がなくてはならないと思います。そのためには教科書から自らが学んだ事柄をアウトプットする場面（授業の展開の仕方、レポート、発表等）が重要であると考えます。

・授業時間に読ませないと、自分では読まないと思う。生徒主体で行っていても結構きちんと活動に取り組みよい活動だと思う。

・実施に至るまでは教科内でかなり話し合い評価方法まできちんと考えてから踏み切る必要があるため個々人で実施していくのには限界がある。

・多く読ませたいがフォローすることは時間的にむずかしい（授業、校務ともに忙しい）

・大変有意義なことで、その効果（英語習得における）も大きいと考えています。

・多読活動は絶対必要だと思う。教科書の英文量では不十分。

（かつて実施していた学校からの意見）

・ぜひさせたい。抵抗なく読めるというのが大切だと思っている。ストーリーテリングの技術は日本語・英語共に大切なので今後もすすめたいと思う。

・多読を行う際に専門的な知識、方法等を知らないと学力の低い学校の生徒はただの息抜きの時間になってしまう。

・多読活動をすすめていくと生徒は少しくらいわからな

くても読み進めていく力がついていく。教科書の授業では取り扱う量も限られているし細かい文法的なことにも気をつけていくことが求められるが自分の好きな分野の本を自分のレベルで読んでいく中で全体的な語彙力が増えていき文の内容を把握できる力がついていくことは生徒にとっては必要なことだと思う。どうしても生徒は多読を勉強と位置づけにくいようで取り組みも積極的でないものもいるのが残念である。成功には継続的に多読活動に取り組める学校内の教員の配置が大切なので一人で取り組むときは決意が必要であるのが残念である。

・大変意義深い活動だと考えている。３年間を見通して計画し、実行することが大切。中には関心の低い生徒もいるので、この生徒への対応指導を考えていかなければいけないと思う。何か他校での実践例があれば教えて欲しい。

・必要な活動の一つであると痛感しているが時間的にも徹底できていないことが悩みである。

・個人購入でセットを手に入れる。昨年度は少し生徒に紹介したが今年度は多忙で何もしていない。

（実施したことのない学校からの意見）

・多くの英文に触れ単語語彙の知識を増やすことはよい。次にそれらの知識を利用して４技能活動にどのように生かしていくかが大きなテーマと思います。

・個人的には、会話などの以前に本に何が書いてあるか知りたいと思ったことが英語に関心を持つきっかけだったと考えているので、望ましい手法の一つだと思う。ただし読むことにいかに気持ちを向けられるかが問題。

・活動そのものは時間的に生徒の余裕があればやらせて意義のあるものになろうかと思いますが、日々の最低限授業の範囲で行うこと等で精一杯になっている現状で多読活動を考えるまでには至っておりません。

・学校のレベル、生徒の実態上「多読」にはいきつかない。基礎・基本を固めた上で将来的には挑戦させたい。

・どのように評価につなげれば良いかが分からない。大意が分かったという生徒がいてもどの程度なのかが計りがたい。

・授業の中で定期的に読み物を読ませる機会を持ちたいとは思っていますが、教科書や問題をこなすのに精一杯というのが現状です。また読ませたい文章を生徒に提示するということが、こちらの好みの押し付けになってしまうこともあるので、願わくは生徒が自分で読む物を自分で選択できればと思います。

・生徒の力を伸ばすのに有効な活動で課外活動や課題等で取り入れたいと思う。ただ本を準備するまでには至っていない。英字新聞からの抜粋を読ませるにとどまっている。どのような本がいいのか情報があればお聞きしたい。

・一定の英語力のある生徒にとって多読は効果的かもしれない。

・生徒の英語に対する苦手意識が強く長文を読もうとしない。はじめからあきらめてしまう生徒が多い。しかし内容が興味深く、生徒の学力にあわせて段階的にレベルを上げていくようにすれば非常に効果的であると思う。

・課外活動等で実施できればと思っています。

・毎日英文を読み続けることで、英語力を少しずつだが確実に向上できる。

・英語の苦手な生徒へ日英語で書かれた漫画を少しずつ読ませ英語学習への意欲を高めたいと思っている（工業高校では学術的な洋書などを自ら読もうとさせるのは難しいため）

・本校は小規模校でかなり前から定員割れをしている学校です。普通科のリーディングなどでは多読速読をと考えているのですが、生徒の現状では難しいところです。何かにつけて「コミュニカティブ」という学習活動にのみウエイトが置かれがちですが理解力のためにも多読は必要と思われます。

・本校の生徒レベルでは多読活動は不可能なので試したことはないのですが、英語活動においては有効な活動だと思います。

・実施した方がよい。生徒に読ませるということを念頭に置くとやはり定期考査等に組み入れるしかないのでしょう。

・國弘正雄が著書の中で多読の効果についての記述がありかつて興味を持ったことがあった。必修科目にでもなれば日本の英語力は確実にアップすると思われる。

・多読は必要だと思います。生徒のレベルに合わせ生徒が自主的に選び読める形で生徒の身近に用意できればと思います。

・目的にもよるができればやりたいが、時間的に余裕がない。決められたものを実施。量が多い。

・できれば多読のみではなくニュースや音楽を聴かせたりgeneralEnglishに触れさせたい。

・個人的には必要性を感じておりますが本校では現在取り組んでいない。

・多読活動をした方がよい

・文法精読と多聴多読の両者があって英語の力がついていくものと思っています。特に多読は自分のレベル、ペースで進められ、大変有効な学習方法だと信じているのですが、「多読指導（傍点）活動」を開始する自信とゆ

とりがない状態です。参考になるアンケート結果が出ましたらご教示ください。
・学校の実情に応じてどのような活動を行うのかは判断すればよい。本校では少人数でのＯＣＩの授業に力を入れている。
・一部の積極的な生徒に関しては有効だと思う。個人的には貸し出しはしているが、全体指導となると学力的にもやる気の面でも難しい。
・クラスの中でほんの数名の生徒が中学校レベルの教材を読みこなせるだけで、ほとんどの生徒は単語の数においても構文的な面でも多読にはついていけない。基礎力が（全く）ほとんどないのです。多読は必要と思いますが、それを実施するのに、「ほとんどの単語がNew Words」のレベルでは難しく思います。
・本校は地方の（中級）進学校であり長文読解として相当数の教材を読ませております。しかし本来の多読とは意義が違うと感じます。読む楽しみとしての活動をもっと取り入れられたらとは思いますが諸事情によりできません。英語教育だけではなく理科教育などにも同じことが”教育”全般に言えると思います。
・ORTは字のない本からあり、底辺の高校でも使えるという話を聞いているので是非試してみたいのだが今のところ予算がなく今年は行えそうもない。多読は英語の力をつけるために絶対に必要だと思っている。
・読ませたいが、現行の授業をこなすので一杯。放っておいて読む生徒レベルではない。個人的には生徒たちに多読は必要だと思う。テキスト等だけでは量が全く足りないのは明らかである。
・英語学習に興味・関心を十分に有する者が取り組む活動で、ある程度の自発性や積極性を持たない者には効果がないか更に逆効果である。
・本校でも（個人的に）実施したいと考えていますが、予算の問題があります。もしこれがクリアされれば導入して、多読の授業を総合の時間にやりたいという希望は大いにあります。
・読解力の向上には有効だと個人的に考えているがスペース予算ともに困難が多い
・多読は必要であるとの意見が教科会で出ています。図書館にもあるのですが、洋書のみワード数別に分類して英語ルームのようなところを作っていきたい。
・大切なことだと思いますし、多読を通して自分自身も英語の力をつけてきたと思います。時数が少なく学力的にも高くないが、場合によっては英語に興味を持つきっかけになるかも知れません。
・英語力のレベルにかかわらず語学の一環として取り入れていく価値のある活動だと思いますが、特に初級学習者に対しては導入に慎重にならねばならない状況が多いと思います。
・物語等の本を指定してできるだけ多く読ませる形の多読を行っている。年間7～8冊読んでいる。他の学校でどのように実践しているか知りたい。
・生徒の要求するレベルに応じて必要だと思います。
・活動として興味があるが、やっていない
・予算があれば教材をそろえて欲しいと思っています。興味を持っている先生方もいます。
・多読が英語力向上に有効だと言うことは承知しているが学校で組織的な活動にすることは容易ではないように思える。ただ多読の有効性をもっとアピールしたり多読をしたい生徒をバックアップする努力は必要だと思う。
・確実に英文を読む力をつけ長文に対する怖れを少なくしてくれる効果があると思う。本校では多読はやっていないがReading選択者は他の生徒より多くの英文を読んでいるため同じ英文を読ませてもスムーズであるように思われる。
・サイドリーダーにまで指導が及ばないのが現状です。予算的に厳しい状況である。
・前任校では週末課題として実施していましたが読ませる効果は大きいと考えています。が、高校生になってからでは遅いとも思います。
・教材を揃えるのにお金がかかる等の理由で本校では行っておりませんが興味はあります。
・ある程度の数をそろえることができるならば是非やってみたいと思います。
・時間があればやってみたい
・折しも我が校も「多読活動」に着目し始めており、その効果、授業への導入への仕方などに興味があります。当校は中高一貫校であり、中高の接続の部分でも多読が取り入れられないかと思っております。ネットワークに参加させていただければ有り難いです。
・定時制高校のため非常に学力が低い生徒が多く、多読活動まですることは難しい。が、ある程度の基礎力のある生徒にとっては多読は大変有効である。
・英語に興味を持たせるという点では必要な活動になるが、ある程度のレベルは必要になってくるので、個別での取り組みでしか実施できないと思われる。
・多読活動は英語のみならず外国語を学ぶ（ばせる）上で重要かつ有意義だと思いますが本校においてはほとんどの生徒が英語の基礎力がほとんど身に付かない状態で入学してくるので（中学の時、英語の評価が５段階の２以下の生徒がほとんど）高３においても単語を覚えさせ

る、簡単なあいさつを口に出して言えるようになる程度しか英語を学ばせられない状態です。まず国語力をどう身に付けさせるかどう登校をきちんとさせるか、教師の言葉を理解してもらうか、そうしたレベルで、どんな英語をどう教えるのか、日々苦労をしています。

・小学校の英語ルームには多読用にGraded Readersがおいてあり、児童は好きなときに好きな本を読むことができる。単語がわからなくても想像して読み進めていくことは非常に良いことだと思うが、中高ではなかなか時間が見つからない。数人であるが借りに来た生徒には貸している。

・中高一貫校であり中学１年から多読活動を行う計画を持っている。図書館の一角にEnglish Libraryを作り、単語が１ページに一つという絵本から始め、徐々に内容のあるものを読み進めていくことができるように、興味のあるものを生徒に選ばせて、辞書を引かず、面白くないと思えばいつでも止めて別のものに移れるというようにして、それぞれの生徒に目標を持たせて読ませようとしている。最初は英語の授業の時に全員を図書館に引率し、生徒に実際に本を見せてEnglish Libraryの説明をし、気に入った本を選ばせることから始める予定。今年は中学生レベルで読めそうなものを300～400冊購入できる予算をもらっている。今後毎年多読用の書籍を購入し、中学生から高校生まで対象を広げていく予定で教材の拡充を図る。

・開校７年目。英語Ｉのみ全員履修。英語が苦手な生徒が多いため多読活動を取り入れることは現状では考えられない。転勤後やってみたいと思う。

・授業での速読にとどまっている。低学力層と受験準備の層の格差が激しく各の問題をこなすのに追われている状況です。

・個人的にはなるべくたくさんの種類の英文になるべくしばしば触れさせることは大変意義のあることだと思うが限られた時間の中で他にも他種類の活動があるのでクラス学年全体での指導は難しいと思う。

・図書館にスペースをとって生徒が自由に読めるようにしたいという案が出たが実現していない。普通科1．2年生対象に年間約6冊のサイドリーダーを読ませ、内容理解の小テストを行っている。

・普段の生活では生徒たちも課題に追われて時間がないと思うが学期の１～２週間読書週間として、また長期休業中に実施可能であると思う。皆が同じ本を読むのではなく個々が読んだ後、交換して読めるようにするとよいと思う。ただ本の費用を個人負担としてもらい、卒業するときにでも寄付という形で学校にストックしていくとよいと思う。いずれにせよ多読活動自体は有意義な活動であるし成果も得られるのではないかと思う。

・英語に興味がある生徒にとってたくさんの面白い本の中から自分のレベルあった本を選び自分のペースで読むことは徐々に長くて易しい英文を大量に読めるようになり、読解力語彙力聴解力の習得へつながってくると思われる。

・朝読の時にペーパーバックを読んでいる生徒がいる。

・現在のところ考えていない

・語彙や文法など体系的にまとめてあれば効果はあると思います。

・英語の基礎力のある生徒たちにとっては興味を持てば非常に効果有りと思います。速読の力、内容理解力など、かなり力がつくのではないでしょうか。

・余裕がなく取り組めない。全員一斉で行うよりも個々に興味のある者にアドバイスはしていきたいと思う。

・興味はあるが本にかかる費用面に問題があり、本校での実施は厳しいと思う。

・本校のような中学英語が定着していない学校では難しい。ある程度の進学校であれば自分で選ぶまではいかなくても週末課題等で読んで面白いものを速読させることは有効だと思う。

・生徒の能力によるので１冊までもいかなくても量の多い英文を読ませる努力は続けたい。

・全く取り組みをしていないので、その効果や取り組み方法などを資料があれば送付して欲しい。

・生徒に挑戦させてみたいが本校の学科上普通科が前に出ることは難しく理解も得がたい。しかし動機付けがうまくいけば・・・と考えている。その動機付けの仕方に今興味を持っている。

・読書量に応じて読解力がつくと思いますので効果的な方法だと思います。

・意欲のある生徒にはとてもよい活動だと思います。ただ部活動、行事の準備、委員会活動等で多忙な生徒（男子）にはなかなか実践が難しいかな、と考えます。

・効果があると考えられますが、日々の雑務に精一杯でなかなか考えられない。

・inputを多くさせたいとは思うが、多読までは指導していないのが実状です。

多読活動への意見についての考察

多読活動を実施している、いないに関わらず、ほとんどの意見は多読に強い関心を寄せていることが読み取れる。実施している学校からは、その意義、効果があるとの意見が多く、実施していない学校であっても必要であ

るという意見ほとんどである。教科書で読む英文の量では絶対的に足りないというのが教師の共通した実感であろう。ただいざ多読を行うとなると問題がないわけではない。意見を寄せていただいたように、教材の購入費用の問題、校務多忙の中にあって実施することの困難さ、生徒の多読の時間をどのように確保することができるか、生徒個々人の意欲関心が望ましい形で多読に向けられるかどうか、生徒の語彙力、文法力等の学力の不足、個人で関心を持っていてもそれを教科内あるいは学校内でコンセンサスを得ることの難しさ、多読活動をどう評価するのか、等々の検討を要する問題がある。

購入に関わることでは、一度に多くの多読教材を揃えることは難しく、少しずつ蓄積し、また小規模でも多読を実践してその手応えを味わうことが現実的であろう。その際、購入対象としてgraded readersのフルセットを選んでしまいがちであるのだが、高校生の大多数にとってstarterレベルのやさしいものを充実させることを念頭に置いて購入すること、また実際に本を読んでみることが望ましい。数多くの種類の多読教材が出版されてきているが、著名本のretold版には談話上の飛躍や無理が感じられ読みにくいものが結構あると思う。大作や展開の早いstoryを圧縮する上で生ずるひずみであったり、retoldをてがける書き手の文章力に左右されるものもある。その点、書き下ろしのものや先述のnative向けのfirst language children's literature and young adult literatureやESLあるいはEFL用のlanguage learner literatureであればこのような問題はなくなるだろう。ただ前者のnative向け（児童書とも呼ばれている）には、たとえ幼児向けのものであってもESL,EFL学習者にはわかりにくい語彙表現が使われていることがある。そこでESL,EFL学習者向けに話題や内容も面白く、筋の展開に無理がなく、文学的にも質の高いlanguagelearner literatureが今後数多く出版されることが望まれる。このlanguage learner literatureという用語についてはRichard R. Day & Julian Bamford (1998, Extensive Reading in the Second Language Classroom, Cambridge University Press)で扱われており、この分野での作者を表彰するなどして教育的また文学的価値を高めていく努力が必要であるとも述べられている。本の選出に当たって同書や他の多読図書で推奨されているもの、多読実践校から評判の良いシリーズなどを聞くなどの手段がある。

費用については、外国語科内の裁量で少しずつ賄っていく、学校管理者に教育的意義を理解してもらい特別に予算をつけてもらう、科研費を申請する、多読クラブを作り、生徒からお金を集める、などの方法があろう。調査結果には個人的に購入した、出版社から送られてくる見本を集めた、などというものもあった。多読教材としては、生徒ができるだけ自由に、また個人の好みに合わせて選べるように多種多数そろえることができればそれに越したことはないが、予算的なことも考慮する必要もある。今後の多読活動にかかわる研究がさらに進み、仮にミニマムエッセンシャルとなるようなライブラリーができたとすると、必要最小限の規模のライブラリーを各学校に設置するという可能性も生まれよう。あるいはExtensive Readingとはならないだろうが、検定教科書に準ずる形で、多数の短い英語の文章、しかも対象年次にあわせ教科書よりもずっと易しくした文章をあつめた、ボリュームのある多読用クラスリーダーを生徒に持たせることも、考えられて良いと思っている。このような場合は組織的に国あるいは地方が財源の措置を執って良いのではないか。このような形になってくれば多くの学校の時間割の中に多読の時間を組み入れる流れにつながる可能性が生まれる。教師の持ち時間にもカウントする、あるいは補習の形態もありうる。

もう一つ出されている課題は生徒の学力が多読に耐えうるものではない、というものである。多読を行うにはある程度以上の英語力がなければ不可能であるとの意見である。これは多読ということばにもしかして理解の差があるかもしれない。多読は英文の難易度に関係なく多くの英文を読むことと理解されるかもしれないが、多読教材はきわめて易しい英語で書かれたものがあり、多読活動はそのようなきわめて易しい英語から、できるだけ多く読んでいく活動と理解していただきたい。多読を実施している学校の多くからOxford Reading Tree(ORT)を使っているとの回答があった。中学一年生にORTを読ませている学校もある。筆者を含め、多読授業を実践すると英語が苦手な生徒から、英語の本が読めた、ストーリーが理解できた、という喜びの声が聞かれるものである。英語の学習への動機付けにも役立つ点も無視できない。英語の教科書による学習は数少ない例文を通して、文法、語彙の難易度がどんどん上昇していくが、多読の場合数多くの平易な文、しかも内容的なまとまりを持ち、生徒が選んだものであればその生徒の興味関心にそった題材の英文に沢山出会うことになる。語彙の面でも、文法の面でも、教科書のようにlinearに難しくなるのではなく、傾斜は登りも下りも平坦な場合もあり、何度も違った文脈で語彙、文法に遭遇することで多面的立体的な理解を可能にするとも言える。豊田工業高等専門学校の実践によると設立から45年間様々な試みをしてきたが、

高専生の英語力はなかなか高まることはなかったという。多読を取り入れ継続していく中でTOEICの平均点やACEの平均点が目に見えて上昇したと報告されている。Richard R. Day & Julian Bamford(1998)は、多読教材には、Stephan Krashenのcomprehensible inputとしてのi+1レベルではなく、i-1レベルのものを大量に読むことが大切であると、述べている。ここのiとは読み手のその時点での言語能力であり、1とは読み手がまだ習得していない学習要素である。要するに多読教材としては、語彙や文法等を含め、生徒にとって未知のものをほとんど含まないレベルが適切であるということである。執って良いのではないか。このような形になってくれば多くの学校の時間割の中に多読の時間を組み入れる流れにつながる可能性が生まれる。教師の持ち時間にもカウントする、あるいは補習の形態もありうる。

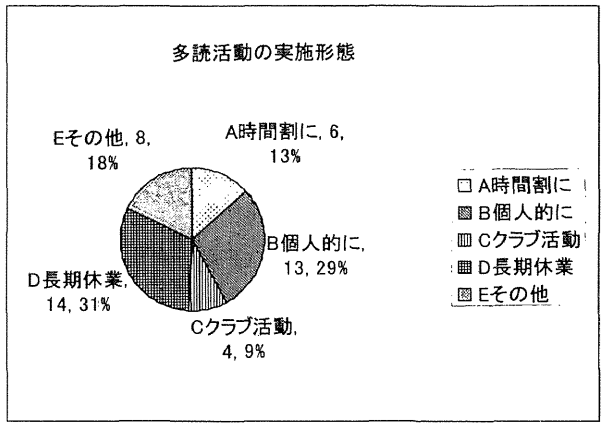
もう一つ出されている課題は生徒の学力が多読に耐えうるものではない、というものである。多読を行うにはある程度以上の英語力がなければ不可能であるとの意見である。これは多読ということばにもしかして理解の差があるかもしれない。多読は英文の難易度に関係なく多くの英文を読むことと理解されるかもしれないが、多読教材はきわめて易しい英語で書かれたものがあり、多読活動はそのようなきわめて易しい英語から、できるだけ多く読んでいく活動と理解していただきたい。多読を実施している学校の多くからOxford Reading Tree(ORT)を使っているとの回答があった。中学一年生にORTを読ませている学校もある。筆者を含め、多読授業を実践すると英語が苦手な生徒から、英語の本が読めた、ストーリーが理解できた、という喜びの声が聞かれるものである。英語の学習への動機付けにも役立つ点も無視できない。英語の教科書による学習は数少ない例文を通して、文法、語彙の難易度がどんどん上昇していくが、多読の場合数多くの平易な文、しかも内容的なまとまりを持ち、生徒が選んだものであればその生徒の興味関心にそった題材の英文に沢山出会うことになる。語彙の面でも、文法の面でも、教科書のようにlinearに難しくなるのではなく、傾斜は登りも下りも平坦な場合もあり、何度も違った文脈で語彙、文法に遭遇することで多面的立体的な理解を可能にするとも言える。豊田工業高等専門学校の実践によると設立から45年間様々な試みをしてきたが、

高専生の英語力はなかなか高まることはなかったという。多読を取り入れ継続していく中でTOEICの平均点やACEの平均点が目に見えて上昇したと報告されている。

Richard R. Day & Julian Bamford(1998)は、多読教材には、Stephan Krashenのcomprehensible inputとしてのi+1レベルではなく、i-1レベルのものを大量に読むことが大切であると、述べている。ここのiとは読み手のその時点での言語能力であり、1とは読み手がまだ習得していない学習要素である。要するに多読教材としては、語彙や文法等を含め、生徒にとって未知のものをほとんど含まないレベルが適切であるということである。

多読活動の実施形態

多読活動実施校（現在・かつて）の実施形態については（複数回答可）、A時間割に特別の時間をとって全校的に実施6校、B個人的に授業で実施13校、Cクラブ活動等の課外活動で実施4校、D長期休業などの課題として実施14校、Eその他8校となった。



その他、の内容としては、朝読書の活動、週末課題、図書館に本を用意しておく、希望者を対象にして貸し出しを行う、調べ学習で使用させる、自由に借りて読めるように教材を置いてある部屋を開放しておく、があった。

Aの時間割に特別の時間をとって全校的に実施すると回答した学校にはセルハイの指定を受けたところが公立で2校含まれており、研究開発の関連で全校的に実施しているのがわかる。さらに私立2校、国立1校、他となっている。

Bの個人的に授業で実施やD長期休業などの課題として実施が比較的に多いのは、個々の教師の裁量で実施するのが可能であるためであろう。

なお個人的に多読を試行しても、その試みを他の教員と共有し、さらに科全体や全校的な取り組みにすることは難しい、との意見を持っている人が多いことがわかった。そのため予算的な措置の影響もあり、活動をやめることになったケースもあるようである。

生徒に多く読ませる工夫

生徒にできるだけ多くの本を読ませる工夫としての回答には以下のようなものがあった。

・教員が選ぶ際に生徒が面白く読めるようなもの、ストーリー性のあるものを選ぶようにしている。また生徒のレベルにあったもの、なるべく一気に読めるように少し易しめのものを選んでいる。
・全体で利用する洋書文庫以外に「学級文庫」として「マクミランスプリングボード」などをＨＲに置いている。年間８冊を課題に与えた。（時にはＣＤ付きの本を選んだ←課題の選定が重要だと思う）自由な多読活動のために「読書記録手帳」を全員に持たせている。
・多くの本を揃える。授業（週１－２時間を３年間）を使い行っている。多読カードへのコメントで励ます。成績に入れる。図書室に本を配置。
・語数の記録帳をつけさせる。
・多くの本を教室へ持って行きその中から選ばせる。本を読んだ後内容を要訳させそれを添削する。何冊読んだかにより成績をつけている。
・多く読んだ生徒を表彰する。語数を記録する。１００万語を目標に読ませる。
・希望者にポイントカードのようなものを渡して読んだらシールを渡しシールがたまったら小さなノート等を景品としてわたす
・辞書を引かずに日本語に訳さずに楽しく読むことのできる本を十分揃えて、英語で多読ができる環境を整えること。
・朝読書で毎日１０分間
・５冊読むごとに語数を合計させできる限り多くの語数を読ませるようにしている。
・年度・初めにオリエンテーションを実施し、活動意義などを十分に説明している。
・多読活動は長期の休みしかできないので、それ以外の時は、日常的に教師が決めた読み物を買わせレポートを提出させている。毎月のペースで行いたいのだが、年間7．8冊程度である。
・わからない単語が一行に３つ以上あるようだったら読まない。辞書は一切使わない。読んで楽しいものを読むようにアドバイスしています。
・グレードの低い易しい本を多く集める。レポート提出もさせる。「英文多読」の授業前半では時事問題、英字新聞などいろいろな英文をプリントで読ませている。
・長期休業中には最低３冊は読むことを課題とし「100万語多読表」を手渡して読破総語数を記入させている。授業期間には英語科前の本棚から自由に貸し出している。
・鉄道路線図、難しい、つまらないものは取り替える
・長期休業中の課題としてだけでなく学級文庫として各クラスに数冊ずつ置く等の工夫も必要と思い考案中である。
・授業で一部を紹介する
・本校では「朝読」という時間があり、好きな本を読む時間があり（ほとんど全員日本語ですが）比較的活字への抵抗感はないように思われます。読書習慣が第一歩と考えています。
・前期に１冊、後期に１冊本を選び授業の最初にＡＬＴがReadingQuizを行う。
・図書館に行かせる、図書購入費で買ってもらう、スタンプカードのようなものをつくる
・読んだ本をプリントに記入させとにかく多くの本を読もうと奨励している。
・多読記録用の用紙を配布し記入させる。週１もしくは２週間に１回授業の中で定期的に多読を行う。Word数を記入させて報告させる（定期的に記録用紙を集める）。3000・5000・10000・30000語等に達した時に表彰する。長期休業中前後はスペシャル期間でさらに目標を設定し賞状、賞品を出す。
・導入部でしっかり説明する。何の目的でどのように取り組むのかというところを。週末課題として課していたので取り組み具合を毎週チェックできそれに応じて個別指導をしていた。
・年度初めに意義やレベル確認、図書館にある本の利用方法等のガイダンスを行う
・リーディイングマラソンと名付けてキロ数を競う
・多くの本を揃えるようにした
・読書記録手帳に単語数や感想を書いてもらい達成感を味わわせる。

工夫している内容を大きくまとめると次のようになるだろう。

1　読書記録を残す。読んだ本のタイトルや語数などを読書手帳等に記録させているのは、ほとんどの学校でさせている。どんな本を読んだのか、どれだけの語数を読んだのかを記録することによって、教師が状況をモニターし、必要であればアドバイスすることもできるし、また自ら達成感を味わい、それが自信となってモチベーションを高め、多読にさらに取り組むことにもなる。

2　生徒に読みやすく、親しみやすい本をできるだけ多く揃える。難しく読みにくいものには手を出さないように助言する。

3　本を読むことの導入を行い、興味関心を持たせる活動を入れる。

4　表彰する、あるいは景品を出すなどをする。競争的な要素を入れる。

5　課題として読ませ、成績に入れる。
6　朝読書など読む時間の枠を設定する。

これは先に取り上げた多読の実施形態にも関連するが、多くの本を読もうと、かけ声で呼びかけても生徒は読まないというのが、教師のもつ実感であり、多読のために時間と場所を確保すること、また課題、成績等である程度の縛りを与えないと、多読の成果が現れにくいといえるだろう。

多読実施校29校中（現在・かつて）18校が活動に伴ってレポート等の課題を与えていると答えている。

活動で与えた課題の種類について

・Book Reportという読書ノートを生徒に持たせ、提出させている。概要、感想、心に残った言葉フレーズ、面白さの評価の欄がある。
・定期考査でテストした（内容に関する質問のみとし読んでいればわかる簡単な問題だけにした）Book Reportの提出（英語で書かせた）
・「読書記録カードに語数、タイトルなどを記入。また直接の課題ではないが多読の本を使ったアウトプット活動を行っている。
・記録帳にコメント欄をつくり記入させる。
・題名、作者名、登場人物、内容、新出語句５つ、上級生はそれに自分の意見も書く
・簡単な感想を書く用紙を提出、夏休みの課題は休み明けテストで内容確認
・場合によりその時間に読んだ本の内容について英語で書かせたり多読中に気付いたことを日本語で書かせたりしています。読書記録（タイトル、レベル、読んだ語数、感想など）を書かせるのが良いと思います。
・実力試験の範囲とする
・本を読む毎に感想（2～3行）を書かせ、毎時間読書ノートを提出させている。
・もっとも印象に残ったことを書かせる。日本語でも英語でも可。
・「英文多読」では課題を特に出していない。自由貸し出し多読ではレポート用紙２枚以上。日本語であらすじと感想文を提出。各学期中に１回、夏冬休みにそれぞれ１回。
・個人またはグループでレポートを書かせ発表させる。
・記録用紙にタイトル、見出し語数、感想3段階
・感想文の提出もしくはワークブックの提出と確認テストを実施することもある。
・与える場合は要約や感想といったものを書かせている。
・ReadingQuizを行う。２つのchapterの中で印象に残った文とその理由を英語で書いてくるという課題を２週間に１度、１年生全員に与えている。
・内容についての日本語でのプレゼンテーション、内容のチェックシート（日英）、リテリング

多読活動の成果と課題

最後に活動の成果と課題についてまとめてみたい。

「成果」

・英語の長文を読むことに対する意識が変わるように思う。長文に対する苦手意識の克服、読み切ったという達成感からくる自信が得られる。
・長文を読むことに対する抵抗感がなくなった。楽しみとして英語を読む生徒が出てきた。長文化している入試にも役立つと思う。
・生徒が英語で学ぶ動機付けとなった。多くの生徒が英語を学ぶことを「楽しい」と感じられるようになった。結果として英検の合格者数が大幅に増えた。
・今年度週１回で始めたばかりで成果はまだ実感できない。
・文化を学べる。英文を読めるようになる・
・今まで英語に興味のなかった生徒が興味を持つようになった。
・長文に対する抵抗感がなくなる。厚い本を読み終えたりすると自信が持てる。
・英語のままで理解する読み方が身に付く。意味を推測する力が飛躍的に伸びる。長文に対する怖れがなくなる。好きな本を選択して読めるため読書本来の楽しさが体験できる。自分の力で英語のみで書かれた本を読み切るので自信がつく。
・量に対する抵抗感軽減、読むスピードアップ、細かいところにとらわれないマクロ的な読み方が身に付く。
・平易な英文でも「読める」という実感を持たせることができた。
・決められた範囲内の本からとはいえ、自ら選択した本を読むことにより、「やらされている」という気持ちがうすまり、モチベーションが高まる。自分のペースで英語の本を読む楽しさを実感し、達成感を味わうことができる。
・純粋にReadingの楽しさが育成されていると思います。長い文章に対しても抵抗がなくなっています。
・英語で読むことが楽しくなり苦でなくなる。また特別なことでなくなればよいと思う。
生徒が英語でそのままストーリーを理解できることが楽

しいと感じられるようになり長い文に対する抵抗感が減ってきた。
・課題発見課題解決型の学習ができ教科書の内容を深めることができる。生徒のモチベーションを高めることができる。
・読めるという成功体験、達成感、訳読からの離脱
・「楽しんで読む」ことを実感させることができる。
・楽しんで読むことができる。自信となる。
・読むのが好きな生徒はどんどん読んでいこうとするという点でmotivationを持たせるのに良い。
・教科書の題材でなく、好きなものを選べるという点では抵抗なく取り組んでいた。初級用のリーダーズを採用したので語彙が少なくても読み進められるので、心理的な抵抗が少ない。ストーリーテリング（日英）の楽しみを知り、伝えたいという気持ちが出てきた。
・英語に慣れ親しむ時間が増えた。
・英語の文章を読むときの尻込みするような気持ちを解消できた。パーフェクトに理解できなくても知らない単語があっても読み進めていくことができるようになった。目標を持って多読に取り組むうちに話の全体像をつかめるようになった。
・１年次より継続していればかなりの成果(Reading力)が得られたと思う。実際は育休に入ったため１年で終わった。引き継ぎをしたが続かなかったようだ。
・自主性に任せており徹底した指導を行っていないので何とも言えない。
・最初「英語の本は難しい」という固定観念を持っていたという生徒も読みやすく面白い本に出会うことによってまた違う本を手に取るようになった。
・生徒の英語に対する興味関心を高めることができた。英語の書籍や雑誌に目がいくようになったと言っていた。

英語の長文を読むことに対して抵抗がなくなったという意見が多く書かれている。慣れもあるであろうが、英文解釈的訳読的な読み方と質的に異なる読み方を生徒が身につけつつあるとも理解できる。また英語を読むことを楽しみと感じられるようになった生徒も増えているようである。

「課題」
・以前は2年生でも実施していたが、大学受験の方に目が向き、読解問題集を、課題とした経緯がある。
・学年全員に８冊（年間）買わせるのは少し気がひけた。教師自身が多読に意味を見いだしていないと長続きしないと思う。
・英語の他科目、他教科の学習とどう関連させるかが課題。
・時間外にどれだけ読ませることができるかが課題。
・クラスに数名読書の集中が続かない生徒がいる。
・いかに評価するか。テスト問題を作るとしたらどう作るのか。いかに他の授業の中に位置づけるのか。
・量、内容、レベルなど適した題材（作品）が少ない。
・総合的な英語力の中の位置づけ、評価の仕方、感想の書かせ方など
・おもしろい英文でそれなりの難易度のものが少ない。英語版の最新ニュースがもっとあればよい。
・本の管理
・生徒に本を選ばせるべきかどうか更に検討が必要である。選ばせる場合どの程度「強制力」を働かせるべきなのかも考慮する必要がある。
・本校の場合教材（本）をそろえての本格的な多読指導ができていないのでまずは環境整備が課題です。
・継続的に取り組むためには授業の中にも取り入れる。本の感想を聞いてみたり本をすすめてみたり（生徒の自主性に任せるだけでは継続するのは難しいので）教員がしっかり意識を持って進める必要がある。教員が日々の仕事に追われて生徒たちに声かけができなくなると、生徒の取り組みも曖昧になる。
・他の教員との思いが異なるとうまくいかない点。１冊あたりの単価が高い。
・指導の不徹底こそが大きな課題である。
・本を読んでもらうのはなかなか難しいと思った。自分が準備した本を全部読んで指導が必要だと本（１００万語多読の？）に書いてあったがそれがなかなかできなかった。
・もし授業に取り入れ評価するとしたら、その評価をどうするかということ。

大学受験との関連、面白く生徒に適した多読教材の数がそろっていない、指導教員の関わり方、評価の問題、多読教材の管理、活動に取り組まない生徒の存在、教材購入費用、等が掲げられている。いずれも簡単には答えられない問題である。

ひとつ言えることは、多読活動は先に述べたように英文解釈的訳読的な読みから脱却して英文を読むことをいわば本来の読みの形に、近づけるのが目的であるということである。大学受験にむけて文法語法、解釈など英語に大量の時間を注いでも、英文を楽しんで読めるようにはなかなかならないのが現実であろう。一方、また大学受験も生徒にとっては避けられない現実である。

現在学校で使われている英語の教科書は多読には使えない。Intensive Readingとして、あるいは、新出単語や文法がつぎつぎに現れ、教師があえて学校で行わないにしても、生徒個人としてはそれに訳読的取り組みで対峙してしまうだろう。多読(Extensive Reading)はそれとは質的に異なる読みの力を習得させようとするものであり、実際の英語の運用には欠かすことができないと考える。筆者の意見としては英語の授業の指導に必修的な扱いで組み入れることが望ましいと思っている。指導上用いる教材については先に案を出したが、教員の効果的な指導方については、さらに検討、研究を重ねていく必要があるだろう。

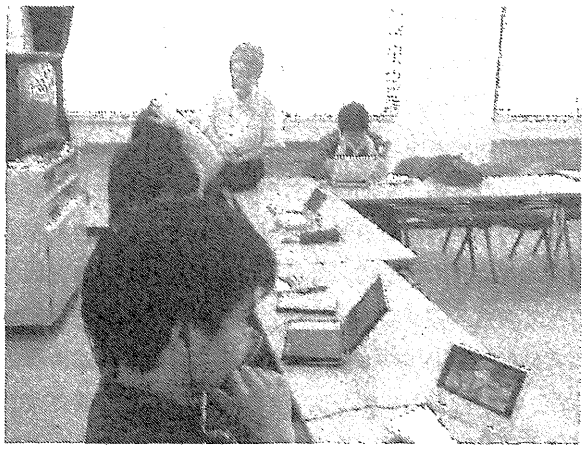
{訪問研修}

以下に先進的に多読活動に取り組んでいる大学、高等専門学校、高等学校の訪問研修の事例を紹介したい。訪問研修を受け入れてくださった学校、懇切丁寧に対応してくださった先生方にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

電気通信大学、酒井邦秀先生の研究室訪問と多読授業見学

訪問研修に対応してくださった先生：酒井邦秀准教授

研究室へ上るエレベーターの前で待っていると、下ってきたエレベーターから降りてきた男性が急に声をかけてきた。それが酒井先生だった。片手にゴミ袋をもって、今からゴミを捨てにいくところであるという。分け隔てのなく、リベラルな雰囲気を持っている先生である。学生に対しても権威的に振る舞う様子は微塵もなく、親和的に声をかけていた。授業中のインタビューでもしかりである。一週間どんな多読的活動を個々の学生に問うのがインタビューの内容である。これを出欠代わりにするとのことだった。英語を交ぜながらの問いに学生は答えていた。



寝る学生はいるかどうかを伺ってみたところ、いることはいるが多くはない。ほとんどの学生は活動に取り組んでいる。これは見学の際にもそうであった。自分で選んだ材料を、おもしろいと思えるものを読んだり、見たりしているわけであり、他人から強制されているわけではないというのがその理由となるのかもしれない。また多読3原則（辞書は使わない・意味のわからないところはとばす・つまらないと思ったら読むのをやめる）をしっかり生徒学生に徹底させることであるとおっしゃっていた。多読の面白みにふと気がつくときがやってくるとしめたものである。苦痛となるような勉強ではおもしろいことはないであろうけれども、おもしろさを追求して読みを行い、おもしろくなければやめるわけである。このような活動の中で、次第に英語を読む力が培われ、さらに英語で読める醍醐味が味わえるようになることになれば望ましい方向に伸びていることになるだろう。

さらに辞書の使用について、伺ったところ、使用はさせないとの返事だった。もし私の鞄の中に入っていればとって捨ててしまうつもりとの強い表現で辞書使用には否定的であった。とにかく辞書を使用しないで読むこと。タイムなどのような雑誌についても辞書を使わないようにした方がよいのかと質問したところ、何十回も同じ単語にぶつかって、いったいこれは何の意味かと思える頻度であれば、使ってもよいだろうとの話であった。ご自身も語彙を増やすために辞書を使うことを試みたそうであるが、無駄であったとのことであった。ただし私見であるが、暗記力の優れた若年のものであれば、辞書の使用がもっと語彙獲得に貢献するのではないかと推測されるが、酒井先生はおそらく否定的な考えを寄せたと思う。英英辞書をまれに使うことには英和辞書ほどには否定的ではないようであった。

語数０の絵本からはじめる英語の多読を推奨なさって

いる。授業にでていた大学生も絵本から読み始めたと言っていた。2年目あるいは3年目になる学生の授業であったが、読書をしている学生の読材料は簡単なものであついペーパーバックを読んでいる学生はいなかった。むしろDVDに人気があるようで、音声の多聴を行っている学生が多かった。字幕については、つけていない学生や英語でつけている学生がいた。

研究室は多読多聴教材であふれかえっており、伺うと12000冊はあるだろうとの話であった。DVDを個人で視聴するためのプレーヤーもソフトとともに貸し出しを行っている点でかなり予算を使用しているものと思われた。多くの学生や18:00近くには社会人が鍵のかかっていない研究室に来て、本を借りていたし、そもそも廊下にも大量の本やDVDがあり、管理はどうかと尋ねたが他人の目がある、との話であった。悪質な盗難は無いようであるが、現実的には少しは紛失していくようである。また同じ教材を買うこともあるとのことであった。まじめな生徒が多く、あまり学生指導上の問題は少ないのだろうと思う。学生からは半期に2000円ずつ集めており、これがだいぶ教材を購入するのに役立っているようである。はじめは科研費や研究費で買ったこともあるとの話である。従前よりも値段が安くなり、Graded ReaderもCD、DVDも手に入りやすくなったとおっしゃっていた。値段だけでなく入手ルートも手軽になってきたとのことである。アマゾンなどでよく購入するとのことであった。多読教材のスターターなどの例は「教室で読む100万語」を参照すれば載っているとのことである。

高校での多読授業については、通例の授業10に対して多読授業１の割合でもよいから始めたらよいのではないか、という現実的な発言もあった。その高校での多読の手法を伺ったところ、正しい、から、楽しい、に生徒、教師の意識を変えることが大切であろうとのことだった。

東京都立千早高等学校

訪問研修に対応してくださった先生：花崎敦子教諭

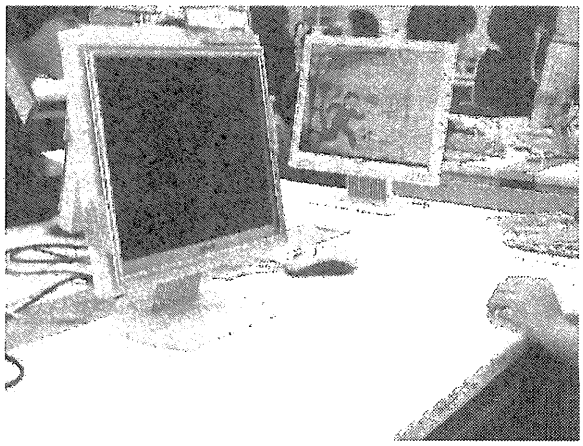
平成18年度－20年度セルハイ研究開発指定を受け、「多読（インプット）と発表（アウトプット）」及び「海外大学連携事業」の推進をテーマとして、研究開発に取り組んだ学校である。平成16年度に開校した「ビジネスコミュニケーション科」単科の進学型専門学校で英語とビジネスを2本柱としている。英語は3年間で23単位（必修）学習する。3年間、毎週の英語の授業の1時間に多読を組み入れている。

ＥＲの授業を参観させていただいた。部屋の一角に間仕切りされたコーナーに多読用図書がならべられている。できる限り表表紙を見せることを意識している配置である。４５００冊ほどあるとのことである。ＣＤプレーヤーもある。授業の最初に教諭から、新しい図書や教諭が読んだ本の紹介を英語で聞き、また最近の野球の話題を英語で話されるのを授業の冒頭で聞いた後、生徒たちは、多読教材のあるこの部屋へ自由に入り図書を数冊選んで読み始める。ＣＤの添付してある本を、ＣＤを聞きながら聞いている生徒もいる。同コーナーに置かれている本はほとんど平易なGraded Readersの１，２レベル以下で、絵にわずか数行の英文がついているある本がたくさんあるのが印象的である。ＳＥＧの見学でGraded Readersの２レベルまでしっかり読めるようになればあとは独り立ちできるという話をきいたことを同教諭が語ってくれた。多読活動が始まると寝ている生徒とかおしゃべりをしている生徒はいなかった。どの生徒もよく読んでいる様子だった。多読は研究開発指定を受ける前に自らOxford Reading Tree（ＯＲＴ）を自費で購入し、その時の実践が生徒にきわめて好評で、研究開発を多読で行うことに関して管理職からも賛成支援の下ですすめられたとのことであった。ただ他の英語教員の中には多読授業には批判的な教師もいないわけではないとのことである。多読に前向きな教師が何人かいたおかげで当初個人的に授業で行っていた活動が研究開発を機に全校的な取り組みになったという。なお多読教材の購入に当たってはセルハイの研究開発費もあるが東京都教育委員会からの支援もあった。本の購入に当たっては「英語多読完全ブックガイド」（古川昭夫・神田みなみ2007コスモピア）や出版社のカタログを使ったり、学校の近くにあるオックスフォードの代理店に直接問い合わせることもある。

見させていただいた授業は高校２年生対象の英語Ⅱの中に入っている週一時間のＥＲである。生徒たちは教師

から授業のはじめに返される読書カードに読語数を記入し、授業終了後に再び教師にもどす。

次の時間の授業は高校１年生の授業でＡＬＴとのティームティーチングである。生徒はすでにＯＲＴ(200冊)を読んでおり、教師が当該のＯＲＴのキーワード生徒に聞かせ、生徒はそのキーワードを聞き取り、プリントに記入する。そのキーワードをもとにＯＲＴのストーリーを自分でプリントの反対側に書く。生徒は５人程度のグループになってキーワードを見ながらstory retellingを順番に行って、聞いている生徒はそれを評価するという流れである。一冊のＯＲＴについてグループ内で一巡するとグループを変え、他のＯＲＴについて再び生徒がretellingを行う。これが本校の掲げる多読とアウトプッ



トのアウトプットに当たる活動である。ＡＬＴがＣＡＬＬ室の１台のＣＲＴにＯＲＴの一冊を示しながら各ＯＲＴのmodel retellingをしているときは生徒たちの話し声は聞こえずよく聞いていた。私がＯＲＴを読んだ印象であるが、これは英語を母国語とする幼児向けの教材で語彙の中に日本人にはわかりにくいものが含まれている。確かにストーリーは短く単純であるが妥当な教材なのかどうかは検討が必要なのではないか。もう少し外国人学習者を意識した平易な教材が開発されても良いのではないかと思っている。このアウトプット活動では、個人差が大きかったが、生徒の一人は発音もよくしっかりとした声で文法的にも正しい英文で発表していた。

卒業までに英検の２級を１割程度の生徒がパスしているという話があり、３年間でかなりの英語の力をつける生徒はいる。英語の時間数が多いと言うことが関係していることは間違いないと思うが多読がどのように貢献しているかが興味のあるところである。同教諭の話にあったように英語に対する動機付けでは、筆者がかつて実験的な手法で結論づけたように、ポジティブな効果をもたらすことは言えるだろう。

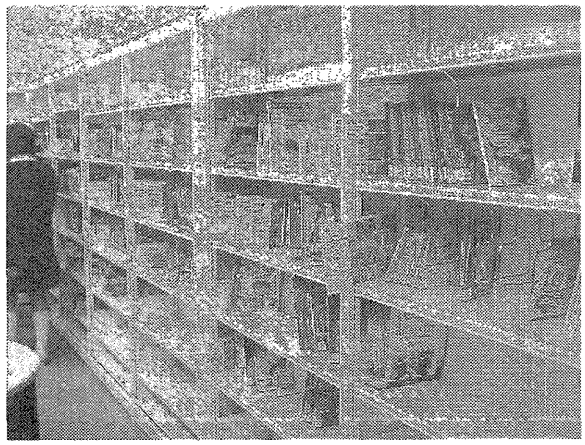
鴎友学園女子中学高等学校

訪問に対応してくださった先生：高見信子教諭

東京都世田谷区にある私立鴎友学園を訪問し、多読授業を見させていただくとともに、多読をどのように取り入れているかについて丁寧な説明をしていただいた。

中高一貫校であり、中学から高校まで授業の中に系統的、組織的に多読活動を積極的に取り入れている。私学としての特徴ある先進的な取り組みを展開しているとの印象を受けた。

１限目は高校２年生の授業、ＬＬ教室でおこなわれた。多読教材は教室の壁に沿って棚にならべられており、更



に外国語の教員室にあるものを含めると全部で８０００冊くらいではないかという話だった。東京私学教育研究所より補助金を当初２年間にわたって５０万ずつもらったほかに、学校からも相当額の予算を受けて多読教材を揃えたというお話しだった。購入は学校に出入りしている業者やアマゾン、ジュンク堂、紀伊国屋などで行っているという。

生徒たちは自由に多読教材を棚から選び読み始める。棚に並んでいる教材は、私にとって見たことのないような本が大部分であった。説明では３種類に区別できるとのことである。

１　いわゆるGraded Readers、これは外国語として英語を学ぶ学習者向けに作られた教材

２　Leveled Readers、これは英語を母国語とする子供向けの絵本などの多読教材

３　その他の一般向け児童書

Graded Readersは簡単なレベルの冊数種類が少ないので、これを補う上でLeveled Readersが欠かせないという話であった。この意見には筆者も全面的に賛成で易しいレベルの本が１の本だけでは絶対的に不足しており、これは大きな問題であり、このニーズに応える本の出版が必要だと思っていたが、２によってこの問題を軽減で

きるのは確かであろう。ただ2については使用語彙が学習者にとって不明なものがふくまれていることである。しかし2をたくさん読んだ生徒はペーパーバックに行きやすいとの説明である。本の選定に当たってはコスモピア出版の英語多読完全ブックガイドを使用しているとの話。

授業を受けていた一人の生徒に聞いた。中学時には字数の少ない絵の多いものを読んでいて同じフレーズが何度も出てきて覚えやすかった。辞書は使わないように言われた。高校からは使っても良いことになった。模試などの長文を読む場合は何が書いてあるか意味はわかるのだが、訳すとなると難しい感じがする、という意見が聞かれたのが、いかにも多読の成果ということになろうか。教師は生徒の本選びを手伝うのが仕事である。本の分類レベル語数シリーズを記号で示しており、各本にシールが貼られている。さらに選択しやすいようにメニューのようなカードが作成されているものもあった。教師のこうしたところに要する苦労はかなりのものであろう。

生徒は各多読に積極的に取り組んでいるようである、記録のための冊子（Book Diary）を各生徒が持っており、タイトル、語数等を記録している。貸し出しも行っている。ＣＤやカセットで英語を聞きながら本の活字を追っている生徒もいた。

course bookとして中学ではOpen House(Oxford), 高校ではNorth Star(Pearson Longman)を使い、原則としてall in Englishで授業を行っている。高３では訳読的授業を一部取り入れているがこれは大学受験対応のためであるとの話だった。

３限は中３のＬＬでの多読授業。生徒がＯＲＴの本を絵も字もまねて作成したものがならべられていた。

４限は中１の授業で最初にフラッシュカードによる単語の練習、次に単語の綴りテスト（教師が発音する語の綴りを紙に書く）次にOpen Houseを使った授業、最後の１０分がＯＲＴを使った多読となっている。最初は同じＯＲＴを全員が持ち、教師とともに音読、次に好きなＯＲＴを教師の前にならべられたものから選びできるだけ多く読み、それを記録ノートに記録するという流れである。

多読による英語の読みは教科書による英語の学習とは明らかに異なる学習効果があることは確かである。
当校では　オーセンティックな英語を取り入れるべく外国出版のテキストを使っている。Open HouseやNorth Starにはもちろん日本語は一切使われていないし、後者の英語量もかなりのものである。文法についてもGrammar in Use(Cambridge)を使い、自習課題として主に扱っているとのことだ。

鹿児島県立屋久島高等学校

訪問研修に対応してくださった先生：小磯　瞳教諭

生徒数は300名内でこぢんまりとした学校である。多読を担当なさった教諭から多読の取り組みについて伺った。多読活動をはじめる動機となったのは10年研修で鹿児島工業高等専門学校の教員による「英語の授業に多読を取り入れよう」の講座を受講したのがきっかけであるとのことであった。従来より生徒の英語スピーチ指導に力を注いでいらっしゃり、今年度も東京で開催された全国大会へ生徒を引率なさったと伺った。研修後、個人で30万円を出し、SSS多読入門セットを購入した。その冊数は600冊で、40名クラスを想定したお任せセットである。これだけの金額を個人的に負担して教材を購入するケースはめずらしいだろう。

多読クラブを作り、一人の生徒から1000円を徴収してクラブに入会させる。授業中またプリントで啓蒙した。しかし設置してある場所が生徒にとってあまりアクセスの良いところではなかったためか借りに来る生徒は少なかった（2週間の貸し出し）。また英語Ｉの授業で各ク

ラス多読教材を持って行って読ませる活動を行った。この時は比較的英語が不得手な生徒からも面白かったという意見が聞かれた。

また社会科地理を教える教諭も個人的に多読に興味を持っており、同教諭の協力を得て、朝読書の時間に環境コースの生徒を対象に多読をさせるようになった。多読に生徒が意欲的に取り組むには競争的な要素が必要で、何万語を読めば証明書を出してこれを大学が評価してくれるシステムなどを取り入れられれば、大学入試に役立ち、生徒の意欲に拍車をかけることができるのではないかと思われるという意見を伺った。

生徒に多読活動をさせる際に、教師は生徒にこんな本を読んでみたらと助言できなければならない。そのためには教師はできるだけ多くの教材に目を通しておく必要がある。それが多読を成功させる上での課題であろうとおっしゃっていた。

確かに全部に目を通すことは時間的にむずかしい。難易度やジャンル、裏表紙の紹介や読んだことのある他の生徒の感想をもとに推薦するなどの方法もあるかもしれない。

埼玉県松山女子高等学校

訪問研修に対応してくださった先生：福原伸子教諭

説明をして下さった教諭が赴任した時にすでにセルハイ指定（平成18年度－20年度）を受けており、とまどったとのお話しをなさっていた。セルハイでは多読と音読を中心に取り組んだ。セルハイの研究開発費で購入した英文多読教材（セルハイ文庫と呼んでいる）のある部屋へ案内していただいた。セルハイ文庫は、現在、家庭科室の一角を借りて設置してある。他に人気のある文庫をセットで購入し、1年の全クラスに配置してある。MacmillanSpringboardである。2年にはICanRead

Books、Stepinto Readingを配置した。全部あわせて3000冊から4000冊あるだろうとのことである。

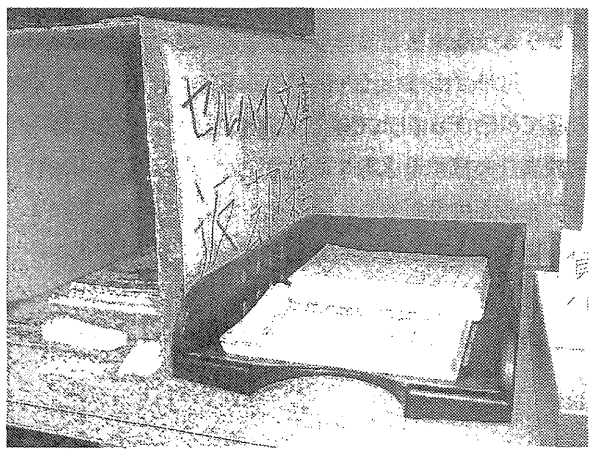
特進クラスを対象に隔週1回のペースで放課後SEG(Scientific Education Group)から講師を招き、多読指導を実施。セルハイ文庫は全生徒対象に貸し出しを行ったほか、先述のようにクラス図書を配備した。

また1．2年全員を対象として課題図書を購入させ、家庭で読ませ、感想を英語で書かせた他、定期試験に内容を問う問題を出題した。この課題図書を読ませる活動は成功したとのことである。その理由としては（研究開発実施報告書によると）

1　最初の一冊を学習合宿という環境の中で、集中して読ませたこと。英語の本が自分にも読めるという自信がついた。

2　二冊目以降は、配布時にその場で10分位読む時間を与えたこと。10分でも集中すれば数ページ読めるので、家で読みやすくなる。CDがある時はChapter1だけ一緒に聞いたこともある。

3　本の選定がうまくいったこと。字が細かく挿し絵が少ないときは生徒の知っている話にしたり、難しめの本の次は読みやすそうな本を選んだりと変化をつけ、英語が苦手な生徒にも投げ出さないように工夫した。



と書かれてある。定期考査に出題することも生徒に読ませる上の動機付け上の効果があったという。

課題図書の取り組みは好評だったとのことであるが、セルハイ文庫を自主的に借りて読む生徒は特進クラス中心となり、その他のクラスから借りに来る生徒は多くはないという。補講形態で、特進クラスは多読指導を受けた効果が出ているのであろう。

多読を成功させるのには、たくさん読もうという呼びかけだけでなく、生徒個々人の興味関心を惹きつけるだけでなく、多読のための時間と場所を確保すること、またガイダンスを与え、自立に向けたmomentumを与え

ることが必要と思う。

なお生徒たちが好んで読んだおすすめのシリーズを紹介していただいた。

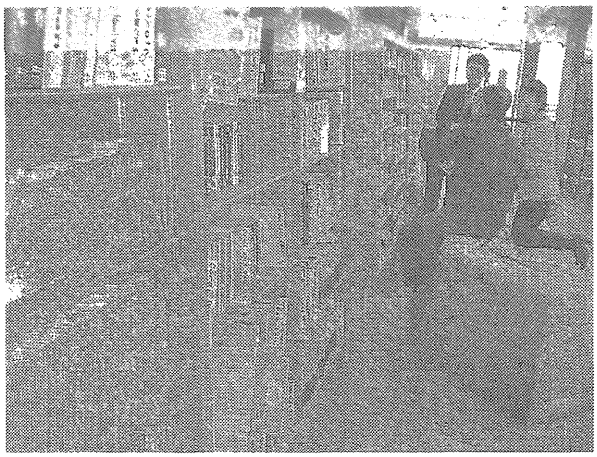
OxfordReadingtree
LongmanLiteracyLand(StoryStreet)
MacmillanSpringboard
FoundationReadingLibrary
OxfordBookworm

豊田工業高等専門学校

訪問研修に対応してくださった先生：西澤　一教授

電気・電子システム工学科（E科）の教授が対応してくださった。

豊田高専は平成20年度教育GP（質の高い大学教育推進プログラム）として「多読・多聴授業による英語教育改善の全学展開」が認められ、主に電気・電子システム工学科（E科）学生に対して行っている多読・多聴授業を全学的に広げる試みを行っている。



設立から45年経過しているが、英語運用能力の向上は長年の懸案だったという。E科では工業英単語小テスト、や校内ネットワークを用いた工業英単語個別学習システムを試みたが、効果は語彙習得に限定された。また「音読・筆写」も実施したがTOEIC平均点がある程度伸びたものの、学生の楽しめる学習ではなく不評で、中止。現在は多読・多聴の授業を継続的に実施し成果を上げている。2002年度後期から英語多読を導入し、早期から学生が効果を実感できる（「英語が読めて驚いた」という学生の声がきかれる）、学習自体を楽しめる学生が多く、従来は嫌っていた英語学習を好きになった学生も多い、授業時間外に自主的に学習する者が増加し、多読教材を置いている図書館の利用度が上がった、との結果が出ている。

高専では学科ごとに、授業カリキュラムを組む自由度が高いこと、また5年間を見通した教育プログラムを作ることができるなどが、有利に働く面がある。多読授業を3年以上継続したE科学生は同世代の大学生平均よりもTOEICの平均点数が高得点となったと報告している。正規科目として「多読授業」を設定し、学生が定期的に読む時間を確保することが不可欠であるとも述べている。読書記録手帳に記録をさせるとともに、ニュースレターで多読活動状況のフィードバックを学生に与えている。さらに定期試験を実施する。例えば、6,000語の未読英文を60分の制限時間内に読ませ、英文回収後、その内容に関する質問に答えさせる形式になっている。

多読授業を主に行う図書館とLL教室に置かれている多読用教材は30,000冊（2010年12月末現在)にのぼるとの話であった。ORTをはじめ、同じ本が複数冊あるものもある。ポイントは易しい多読教材を豊富に揃えることが、訳読的な読みから脱却する上で重要だとする考えに基づいている。

E科、1年向けの多読授業を見学させて頂いた。活動前に、学生が2009年12月に受験したACEの結果が返却された。E科1年の平均は、484点で、全国の高校1年平均440点に対して40点以上上回る平均点だった。E科以外の学科も含めた全学科1年の平均点は454点である。E科の学生は他科の学生より多くの支援を専門学科教員から受けている。その結果が反映されたものと解釈できよう。学生たちはLL教室の前に置かれている多読教材から本を借りて読む。時間終了後に読書記録手帳に記録。

引用文献

Richard R. Day & Julian Bamford (1998) Extensive Reading in the Second Language Classroom, CambridgeUniversityPress

Julian Bamford & Richard R. Day (2002) Extensive Reading Activities for Teaching Language, CambridgeUniversityPress

酒井邦秀・神田みなみ(2005)「教室で読む英語100万語」大修館書店

古川昭夫・神田みなみ(2007)「英語多読完全ブックガイド」コスモピア出版

小澤信治(2003)「ExtensiveReadingを取り入れた英語の授業」筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要pp109-115

小澤信治(2009)「生徒の英語力の向上に及ぼす多読の効果についての実証的な研究」筑波大学附属坂戸高等学校研究紀要pp129-136

＊本研究は平成21年度科学研究費補助金（奨励研究）を受けて実施したものである。

研究課題名「高等学校における英語の多読活動の実態調査及びに効果的な実施法についての研究」　課題番号21903002

資料　1

その他の質問紙項目の調査結果
生徒による本の選択（現在・かつて実施）

・教員が選び、全員に同じ本を読ませることもあれば、5-6冊の中から生徒が選ぶこともある。実施時期は5月連休、長期休業中、定期テスト等の間の時期を使う。
・各自が自分の読みたい本を自由に読んでいる。教師がすすめる場合もあれば友達同士で紹介し合うこともある。
・生徒が基本的に自由に選択しているが、教員がアドバイスを行う。
・ORTのStage1から2まではグループ全員が必読。その後は自由に選択させている。
・生徒の興味にあわせて・適切なレベルの本・長期休暇中の本は教師が選択することもある。
・レベルから自分のレベルのものを選ぶ。レベルは色分けをし、わかりやすいようにしている。
・手にとって読めそうなものを読む
・レベル別に本を紹介し、はじめは最も易しいものから読んでいくように、つまらなくなったらやめる（レベルが高すぎる又は興味がない）、時々高いものを読んでみる。楽しく読めるところでたくさん読むように指導した上、生徒に選択をまかせる。
・教師が指定
・読みやすさレベルに基づいて読める本を選ぶ。前にならべてある本を自由に出てきて選ぶ。
・教員が選定した本5．6冊から10冊程度の内容、英語のレベルを紹介するプリントを生徒が見て判断する。また実物を英語科で見られるように展示しておく。
・内容重視で他の人が読んでおもしろかった場合☆印が４つ以上で、本の表表紙に黄色い○シールが貼ってあるのでそれも目安としています。
・「英文多読」授業では授業後半２０分で、自由選択多読。自分の趣味と難易度で選んでいる。自由貸し出しでは全く自由読書なので、借りる人借りない人がいる。
・自分の好みで選ぶ
・本を読ませるのではなく単元の内容に関して深めるために「調べ学習」として英文を読ませる
・生徒が自分で面白そうなもの、レベルにあっていそうなものを選ぶ
・教員側が指定して購入させる。
・話題作品（映画になっているもの）
・容易な方から興味ある順に
・好きな記事を読む
・年間１０冊くらいの本をピックアップしchapter２ぐらいまでをマス刷りして全生徒に渡す。生徒はその中から１冊以上選ぶ。
・好きなタイトルのものをとらせる
・絵の多いもの楽しそうなものを選んでいる。
・各自自分のレベルにあわせて本を選択する、好きな分野・おもしろいと思うものを読ませる。難しいものはやめて次の本へ移る。再び読みたくなったらチャレンジする。
・教師が様々なジャンルからレベル順に（生徒にあわせてということか）選択していた。課題以外にもっと読みたい生徒には各自で選ばせていた。
・各自興味を持った本（各自のレベルを考えて）
・学校の所有している本の中から生徒が選ぶ
・自分の読みたい本を読ませる
・レベル別に分けた箱の中から各自自分のレベルに合った本を選択

多読に使用できる本（Graded Readers など）の種類と冊数
（現在・かつて実施）

Penguin Readers, Oxford Bookworms Library	200
Oxford Reading Tree, Penguin Graded Readers, Longman Literacy Land, I Can Read Books, Step into Reading, Oxford Bookworm, Penguin Young Readers, Macmillan Readers, Cambridge English Readersなど	3000
Oxford Reading TreeからPenguin Readers, Harry Potterまで	4500
Oxford Reading Treeなど	ORTは個人所有、他は多読支援会から借りている。
Oxford, Penguin, MacmillanなどのGraded Readers、絵本の英訳本（ＣＤ付き）	700
ペーパーバック、絵本	800
Penguin Readersなど	100
英語多読研究会（ＳＳＳ）推薦のPenguin, Oxford, Macmillan等のEasy Starters, Reading Tree, Graded Readers	400
Penguin, Oxfordなど（図書館に）	不明
Oxford Reading Tree, Step Into Reading(Random House)シリーズ, Puffin Easy -To-Readなど	500-600
読み物、エッセイ	1000
Macmillan, Oxford Bookworms, Heinemann ELT, Cambridge English Readers, Penguin Young Readers, Literacy Land, Compass Classic Readers, Foundation Reading Library, All I Can Read	500
Oxford Bookworm Series, Penguin Graded Readers, Heinemannなど	2000
Penguin Readers 1-6	500
Penguin Readers, Oxford出版	620
Oxford Bookworms, Reading Tree, Penguin Readersなど	500
複数の話題を扱った教材を使用（What's up桐原書店）。昨年まではBookworm シリーズを使用。	40
Penguin Readers他	100
Heinemann Oxford Bookworms Library	70
無料購読雑誌、Ｃａｔｃｈ　ａ　Ｗａｖｅ，浜島書店（予算がない）	
Penguin Readersが多数ある。図書館に配置。	不明
Penguin Readersのeasy-startレベル	40
記載なし	100
Scholasticのシリーズ	422
Oxford Bookworms Library, Penguin Readers	50
薄い冊子	200
Penguinなど	不明
１００万語多読セット(SSS多読) ４０名クラス想定のお任せセット	600
Oxford University Press, Oxford Reading Tree Stage1-9, Pearson Longman, Penguin Readers, Story Street Step 1-10	500

（実施したことのない学校）

一方、多読を実施したことのない学校からの回答では、ほとんどない、見たことがない、冊数も0というものが多かった。かなりの冊数を所有している学校もあるが、多読活動には至っていないとの回答をいただいている。羅列的で見にくいが、以下に記載事項を記す。なし、0というのは除いてある。

・出版社からの見本献本
・物語、伝記などの本。本以外にはStudent Timesという英字新聞　30
・文永堂Evergreenシリーズ、桐原Penguin Readers　30
・見たことがない
・出版社等から見本で送られてきたPenguin Booksなど50
・"Oxford, CambridgeのＧＲや多読指導のリストにある初学者用絵本など図書館が洋書教材を多数持っています。"　500～600
・"Penguin Readers, Oxford"　10
・出版社からの見本など　200
・50（冊数のみ記載）
・教材室にはかなり冊数はあるようだが、あまり活用されていない
・5（冊数のみ記載）
・Penguin Readers　30
・Penguin Readersの見本　30
・伝記、物語、時事など初歩レベル　60
・長期休暇に生徒に一冊読ませる
・サンプルで送られたもの、物語が半分以上　50
・Penguin Readers　100
・"Penguin Readers,中央図書、三友社"　200
・山口、三友社などの見本　15
・200（冊数のみ記載）
・献本で多少あるものの学校、科としての購入物はない。
・オーストラリアに関する書物、優しいペーパーバック　100
・英字新聞
・"Penguin Readers, Oxford Bookworms" 300
・ペーパーバック 図書館に　20～30
・図書館に30冊
・系統的なものは所有していない。
・30（冊数のみ記載）
・献本として送付されるものはあるが貸し出したり授業で使えるものを購入はしていない。30
・献本でもらった文永堂、中央図書、浜島書店の冊子　20
・ペンギンブックス　50
・20（冊数のみ記載）
・Penguin Readersなど 10～20
・What's up?（桐原書店）英潮社Longman Graded Readers 20

資料　2

調査に使用した質問紙

英語の多読活動についての調査用紙

筑波大学附属坂戸高等学校外国語科教諭　小澤信治

英語の多読活動の定義

（　　）

「原則として、生徒が主体的に自らの興味関心に基づいて読材料を選択し、語彙や文法の理解、個々の英文解釈に拘らずに、楽しみを目的とした英語の読書をできるだけ多く行わせる活動。」と致します。

下記の該当する項目にチェックまたは内容記載をお願いいたします。

勤務なさっている学校についてお教えください。

○課程

□全日制　□定時制　□その他（　　）

○学科（異なる学科を併設している場合は該当する複数の学科名にチェックしてください。）

□普通科
□職業学科（農業・商業・工業・水産・家庭・看護・情報・福祉）
□その他専門学科
□総合学科

○設置者

□都立　□道立　□府立　□県立　□国立　□私立　□その他()

○学校規模

・生徒総数　約〔　　〕人
・各学年のクラス数
　１年次〔　　〕、２年次〔　　〕、３年次〔　　〕、４年次〔　　〕
・クラス定員〔　　〕人

多読活動の実施の有無についてお教えください。

□現在実施している。
□かつて実施していたが現在はやっていない。
□実施したことはない。

○実施なさっている、あるいはかつて実施なさっていた場合（複数回答可）

□時間割に特別の時間をとって全校的に実施
□個人的に授業で実施
□クラブ活動等の課外活動で実施
□長期休業などの課題として実施
□その他（　　）

○実施なさっている、あるいはかつて実施なさっていた場合、下記項目にもお答えください。

・多読活動を行うときの生徒の数はおよそ何人ですか。

・多読活動に使用している本の種類はどのようなものですか。また冊数はおよそ何冊ですか。

およそ（　　）冊

・生徒はどのように本の選択をしていますか。

・生徒にできるだけ多く本を読ませるために工夫なさっていることはありますか。その内容をお教えください。

・活動に伴い生徒にレポート等の課題を与えていますか。与えている場合はどのような課題を与えていますか。

・多読活動を実施してどのような成果が得られたとお思いになりますか。またどのような課題があるとお考えですか。

多読活動の実施の有無に関わらず、お答えください。

・貴校にある、多読に使用できる本（GradedReadersなど）の種類はどのようなものですか。また冊数はおよそ何冊ですか。

およそ（　　）冊

・多読活動についての先生のご意見をお聞かせください。

・貴校の学校名
〔　　〕

・質問紙にご回答いただいた先生の所属とお名前
所属〔　　〕　お名前〔　　〕

○今回の質問紙調査の報告書へ、貴校の学校名、ご回答いただいた先生のお名前を記載してよろしいでしょうか。

□学校名と回答者名ともに可
□学校名のみ可
□回答者名のみ可
□学校名と回答者名ともに不可

☆ご協力いただき大変ありがとうございました。
☆お忙しいところ恐縮ではございますが、同封の返信用封筒にこの調査用紙をお入れになり、9月中旬までに送付いただきたくお願い申し上げます。